

事務事業及び予算の執行実績

(令和5年度分「一部、令和6年度含む」)

静岡県立西部特別支援学校

様式目次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	22
3	学校施設の概要	23
4	在籍生徒調	25
5	入学志願者及び入学者数調	26
6	卒業生の動向調	27
7	生徒の状況	28
8	特別支援学校における生産物売払調	30
9	預金調	37
10	郵券等受払調	38
11	材料品受払調	39
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	46
13	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	46
14	委託料に関する調	48
15	負担金支出調	52
16	公有財産調	54
17	借地借家等調	56
18	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	57
19	行政財産貸付・使用許可調	58
20	主要備品調	65

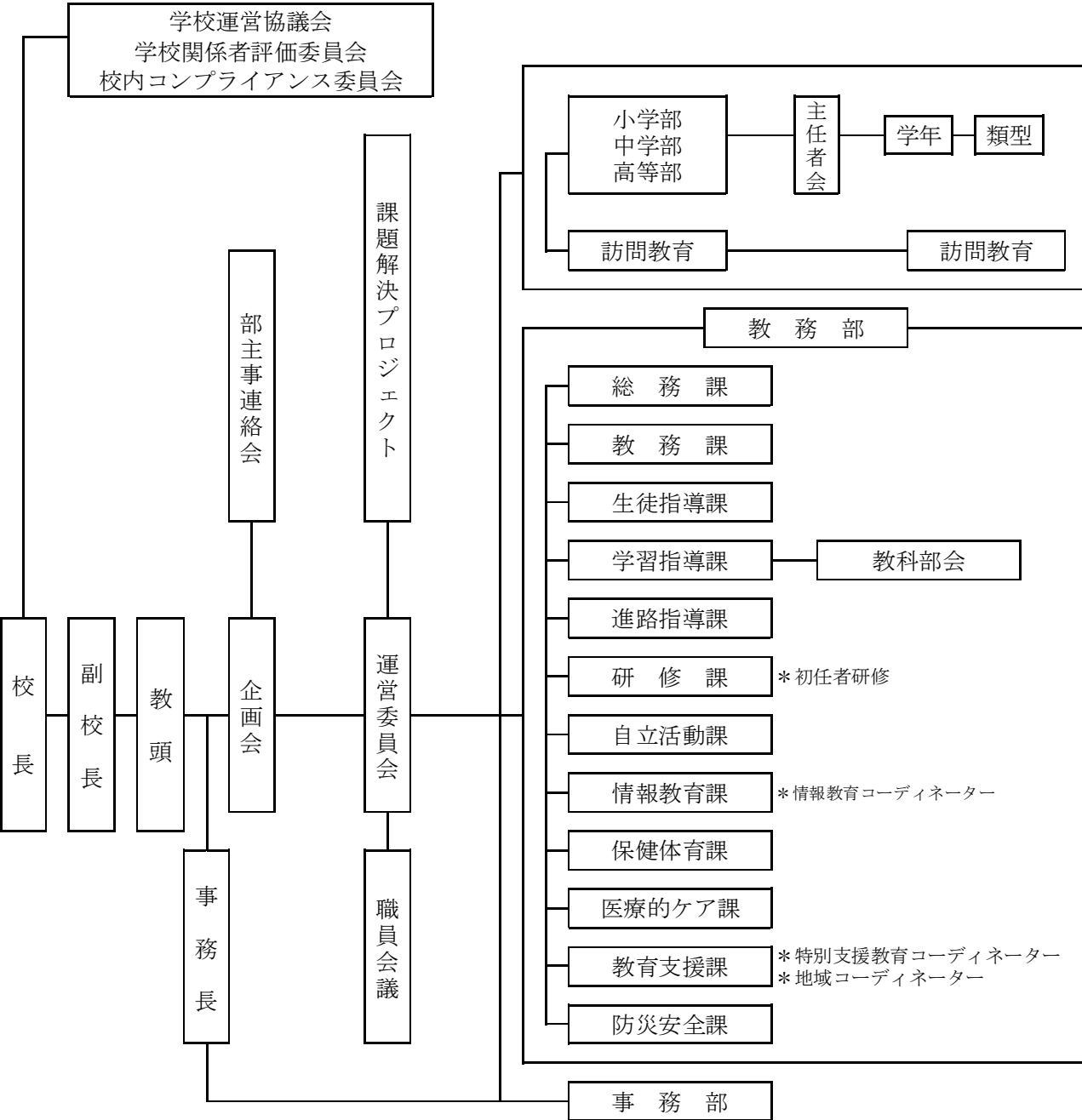
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

昭和 38 . 11 . 16	浜松療護園開園と同時に、園児生徒を対象として、豊岡小学校、北星中学校の特殊学級として、療護園の一部と食堂において授業を開始する。
39 . 4 . 1	静岡県立静岡養護学校西部分校設立（浜松療護園の一部を仮校舎として発足）
39 . 4 . 14	開校式
39 . 7 . 9	本館第一期工事竣工
40 . 7 . 6	スクールバス運行開始
42 . 12 . 23	南校舎（第2棟）4教室増築完成
45 . 2 . 10	5周年記念及び増築校舎落成式挙行
46 . 3 . 25	第3棟校舎建築工事竣工
49 . 4 . 1	静岡県立西部養護学校として独立する。
52 . 8 . 5	第2棟とりこわし、新校舎工事着工
53 . 3 . 8	第2棟校舎建築工事竣工
54 . 4 . 1	養護学校の義務制施行、訪問教育実施
56 . 3 . 31	体育館竣工
57 . 2 . 3	第3棟東側 職員室、2教室増築
58 . 4 . 1	高等部設置、第1学年入学
59 . 2 . 29	高等部校舎建築工事竣工
61 . 3 . 8	高等部第1回卒業証書授与式挙行
62 . 3 . 7	高等部校舎増築工事竣工
平成 元 . 4 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（訪問教育）（平成元年～3年 3年間指定）
5 . 1 . 25	配膳室建築工事竣工、業者委託による完全給食実施
7 . 8 . 25	図書室建築工事竣工
10 . 7 . 1	文部省指定特殊教育実験学校（医療的ケア）（平成10年～11年 2年間指定）
11 . 4 . 1	高等部訪問教育実施
12 . 4 . 1	「特殊教育における福祉・医療との連携に関する実践研究」の継続指定
13 . 4 . 2	文部科学省指定「養護学校における医療的ケアに関するモデル事業」 文部科学省指定特殊教育調査研究協力校 「地域における交流活動の充実に関する調査研究」 （平成13年度～14年度 2年間指定）
14 . 1 . 18	県の委託NPOから看護師が2人派遣される。
15 . 4 . 16	医療的ケアに県の委託NPOから看護師2人が派遣される。
16 . 4 . 1	聖隷浜松病院の小学部・中学部訪問教育開設
16 . 4 . 22	医療的ケアに西部地区の県の委託NPOから看護師3人派遣される。
17 . 4 . 1	2学期制実施 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として3人配置される。
18 . 4 . 1	おおぞら療育センターの高等部訪問教育開設 医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として4人配置される。
20 . 4 . 1	校名を静岡県立西部特別支援学校に変更
27 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として5人配置される。
29 . 3 . 14	新校舎建築工事竣工
29 . 4 . 1	移転地にて業務開始となる。
29 . 4 . 1	医療的ケアに看護師が特別非常勤講師として6人配置される。
令和 5 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として7人配置される。
6 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として10人配置される。
7 . 4 . 1	医療的ケア看護職員（会計年度任用職員）として13人配置される。

(2) 組織図



各種委員会	教育課程検討委員会 校内就学支援委員会 教科書選定委員会 人権教育及びいじめ対策委員会
	スクールバス委員会 研修推進委員会 情報セキュリティ委員会 学校保健委員会 学校給食委員会 アレルギー対応委員会
	医療のつ検討委員会 交流教育推進委員会 防災対策委員会 道德教育推進委員会
	入学者選考委員会 業者選定委員会 職員安全衛生委員会 交通安全促進委員会 施設開放委員会

2 目指す学校像

令和5年度

(1) 教育目標

「豊かで明るく健やかな子」

自ら学び自ら表現し、自立と社会参加を実現できる人

ア 豊かな自分の夢の実現に向けて主体的に学習する【知】

イ 明るく仲良く、相手の立場を尊重した生活をする【徳】

ウ 健やかな心と体をつくり、生活習慣を整える【体】

(2) 目標具現化の柱

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

令和6年度

(1) 教育目標

「豊かで明るく健やかな子」

ア 主体的に学び、豊かな心をもつ児童生徒【知】

イ 人・もの・ことに関わり、自分の思いを表現する児童生徒【徳】

ウ 健やかな心と体をつくり、たくましく生活する児童生徒【体】

(2) 目標具現化の柱

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり【安全・安心】

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり【授業・専門性】

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり【連携・協働】

エ 共に支え合い学び合う、生き生きと働く職員集団づくり【チーム】

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

評価基準 A＝十分目標を達成することができた
B＝おおむね目標を達成することができた
C＝あまり目標を達成することができなかった
D＝ほとんど目標を達成することができなかった

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・避難生活も含めた系統的な防災学習の実施 各学部1回以上	実施 100%	A	・各学部で防災食体験を含む防災学習に取り組んだ。食事場所や食事内容等の課題が出された。来年度も各学部で取り組んでいく。
	・発災後から学校再開までの動きと緊急時の動きを理解できたと答える職員100%	AB評価 98.2%	A	・今後も具体的な場面を想定した訓練や研修を行い、理解を深める。 ・今後も、実際に起きたときに生かすことができるように、保体課、医ケア課と連携して訓練等の内容を工夫していく。定期的な学級内におけるシミュレーション訓練も検討する。
	・必要物品の点検年1回（児童生徒個人防災用品は年2回）	実施 100%	A	・児童生徒の必要物品を保護者と確認することで防災意識が高まった。

・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取り組みの充実	・安全な生活・学習環境の中で授業を充実させることができたと答える職員90%以上	AB評価 94.5%	A	・来年度も食堂や教室が食事をする場として安心・安全な環境であるか、学校給食委員会等で検証を積み重ねる。特に教室等の食事衛生環境が徹底されるよう、周知の方法を検討する。 ・摂食研修は基本を知る、確認するといった点で有効と回答する職員が多かった。課題は日々の指導とのつながり、機能評価と実践のつながりである。 ・食事カードは、目標や支援、配慮事項の整理できること、担任外が担当するときに参考にできることといった点から有効に活用されることは増えてきた。課題は必要事項の確認である。 ・摂食カンファレンスは必要に応じて全学部で実施し、指導や支援の方針整理や共通理解の点で有効であった。課題は、組織としての体制と人材の育成である。 ・今後も安全な環境整備に努めるとともに、掲示物等を有効に活用していき学習環境を更に充実させていく。 ・運行安全マニュアルを基に乗降車の確認を徹底し、安全なスクールバスの運行をすることができた。来年度は、スクールバス内での生徒指導について介助員や担任と連携して充実させていきたい。
・多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と教員	・道徳教育全体計画に基づき、道徳教育の充実を図れた答える職員100%	AB評価 94.3%	A	・道徳教育全体計画から個々の目標を立てることができているが、教育活動全体の中でどのような授業づくりをすればよいか課題である。道徳教育推進委員会を中心に、道徳教育の授業づくりについて検討する必要がある。
	・人権教育年間計画の作成	AB評価 96.2%	A	・人権教育年間指導計画の作成に向け、全校統一で計画・実施した内容の整理をし、次年度の方針を検討した。今後は、各授業集団の取り組みを整理し、学年間・学部間のつながりを意識して年間指導計画を完成させていく。
	・学校全体の人権意識が高まったと答える職員100%	AB評価 98.2%	A	・個人の自己評価からは、高い人権意識をもった教員が多いことが窺える。しかし、他の教員の発言について厳しい意見が出ていることから、人権意識を高めるための取組を工夫していきたい。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・効果的にツールを活用し、PDCAサイクルによる授業ができたと答える職員90%以上	AB評価 91.5%	A	・研修日や類型会を使って、授業について検討することができた。単元の評価をしたり、次単元に生かしたりすることが十分にできなかった。時間が十分に取れなかった。 ・まるっとシート（訪問）を使って、単元間のつながりを意識した授業を行うことができた。国語算数は他教科と関連づけて指導することができた。各教科への意識は高まった。子供の実態で各教科のつながりを考えることが難しかった。 ・実態把握シートは、新入生で作成後は卒業まで更新、随時見直しという形をとることで、共通理解という目的を果たしつつ、業務の効率化にもつながる。課題は、検討の機会の確保である。また、実態把握が自立活動の主課題の検討や指導の根拠説明につながるようにする。
	・教科等横断的な視点に立った年間指導計画の作成と授業実践ができたと答える職員90%以上	AB評価 94.3%	A	・年間指導計画の話し合い日を設定したことで、グループ内で個の目標の確認も合わせて行うことができた。来年度も継続する。また、年度当初の授業づくりが時間的にも人員的にも厳しいことから、年度末に次年度当初の計画を簡単に立てておくようにする。
・教員の専門性向上	・相談が日頃の悩みの解決に役立ったと答える若手教員90%以上	AB評価 88.8%	B	・多くの若手教員が、中堅教員との相談を日頃の悩みの解決に役立てることができた。一方、中堅教員は、自身の助言が不十分であると認識している傾向にあった。今後は、ペアを固定せず、OJL（職員間の対等な学び合い）体制に基づく職場風土づくりを行う。
	・若手教員へ日常的に助言することができたと答える中堅教員90%以上	AB評価 40.0%	B	
	・各研修が業務遂行に役立ったと答える職員90%以上	AB評価 96.8%	A	・外部講師研修を実施したグループ、教員は、多角的な視野で支援方法や目標設定の見直し、アセスメントなどを検討する機会となり有効であった。課題は、学部やグループなど組織的な取組ができるようにすること、学校生活や学習活動として生かしていくことである。 ・校内研修は有効であったという回答が多いが、対象者と内容の確認は検討する。
・将来の姿を見据え、個の力を最大限に生かすためのキャリア教育の実践	・自立活動指導計画の改訂（流れ図の考え方を反映）	AB評価 92.1%	A	・中心的な課題の設定や課題のポイントを指導できたとの回答は多かった。流れ図のプロセスの意識をもっていること、課題を関連付けて指導内容の根拠説明ができることが必要であるとの意見もある。課題は、そのための研修や複数での検討等の体制を整えていくことである。 ・学習指導要領を基に目標を立てることができてきている。来年度以降、他教科についても行っていきたい。 ・I 類型の評価の仕方について学習会を行った。今後は、教科学習に携わる先生方に年度当初に必ず伝えることができるよう、類型長と連携していく。

	・キャリア教育を意識し、個に応じた教育ができたと答える職員100%	AB評価 96.8%	A	・進路に関する情報提供はできていたが、教育活動と関連付けた進路指導の内容については不十分な部分があった。今後はワンポイントレッスンの内容の精選や日常の指導の指針になるものを示していく。 ・新書式を活用し、面談時に確認するポイントをもとに、保護者と情報共有できた。今後、部分改定したR6書式の周知や、保護者や教員間で共通理解できるツールとして更に活用できるよう、場の設定、活用の具体例等を情報提供していく。
	・各グループ・係で3事例以上の実践	AB評価 91.1%	A	・体育や自立活動の授業で、個に合った指導ができたと回答した教員の割合が9割以上だった。今後は、外部人材の活用を視野に入れて、スポーツ活動のさらなる充実を図る。 ・日々の部活動や大会の参加を通してスポーツに親しんだり、多読賞を表彰することで読書の推進に繋がったりした。読書週間の内容については学部により取り組みに差があったため検討が必要である。
・ICTの活用	・タブレット端末等の活用を工夫した実践各グループ2回以上	88%	A	・小・中学部、訪問小中は、児童生徒に一人一台端末を割り振ることで個々に応じたアプリを入れたり、設定を保存したりして活用しやすいという声が多かった。高等部については、年度途中で端末の入れ替えなどがあり、アプリ導入がスムーズに行かないこともあり使いにくさが残った。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・各機関との円滑な連携と情報発信	・学校からの情報発信に概ね満足していると答える保護者90%以上	AB評価 91.6%	A	・直接開催で学校公開を行い、本校の教育を理解していただく機会となった。今後、より参加者のニーズに合った公開ができるよう、参加対象を絞り、本校教育への理解を更に深めていく。 ・西特だよりは、地域回覧で好評を得ている。今後も、HP等を活用して学校の様子を適宜伝えていく。 ・ホームページに載せる各分掌からの新たな情報について、新しくタブを作ってレイアウトを整理した。 ・進路に関する情報をCOCOOで発信したが、アンケートで保護者からのニーズに応じた情報も提供し、進路情報として役立てることができたと声があった。
	・校内外の支援体制が整っていると答える職員90%以上	AB評価 96.2%	A	・教員によって感じ方の違いはあるが、本人や保護者の困り感をキャッチし、所属集団で共有できた教員が多かった。 ・電話相談や支援会議で関係機関と連携して課題に向かうことができた。ケース会、支援会議までの流れや支援体制を明確にし、課題に迅速に対応できるチーム力を強化する。 ・今後も事前打ち合わせで生徒の情報を丁寧に共有できるように進める。
・地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実	・各学部の取り組み100%	100%	A	・地域ボランティア募集のチラシを地域各所へ掲示した。7人の登録者があり、絵本の読み聞かせ等を行っていただいた。また、近隣地域の畑や店に出向き、校外学習を行った。今後も地域との連携を深め、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの充実につなげる。

	・互いの理解が深まる交流ができたと答える職員90%以上	AB評価 93.8%	A	・感染状況に応じて日時の再調整を行い、目的達成に向けた直接交流を実施できた。引き続き、実態に合った目的を検討し、相手校との共通理解を丁寧に行いながら、交流活動を計画していく。
	・SDGsを意識した実践年2回以上	AB評価 85.9%	A	・SDGsに関する取り組みとして、児童会・生徒会役員が校内放送でエコキャブ運動の目的や結果を伝えたり、掲示物を作成したりした。SDGsを意識した授業を呼び掛けたり、取組例を示していきたい。
・地域に根付いた学校づくり	・地域と連携した取り組み年2回以上	100%実施	A	・地域の畑を見学したり、学校周辺の校外学習を実施したりした。来年度は60周年記念事業も有効活用し、さらに取組の様子を地域に発信していく。

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・風とおしの良い職場づくり	・相談しやすい職場であると答える職員90%以上	AB評価 76.9%	B	・今後は、全ての職員にとって相談しやすい職場となるように、グループワーク等とおして、心理的安全性の高い職場がもたらす効果やハラスメント防止についての共通理解を徹底する。 ・語り合う会については、職員間のつながりの強化において一定の効果が見られたが、会の目的をより明確にし、職員の主体的な取組にしていく必要がある。次年度は、「風通しのよい職場づくり」を目的に、職員が主体となって交流の機会を計画的に設定する。
・学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み	・プロジェクトによる課題の解決・進展100%	AB評価 86.0%	B	・ICT活用の推進、自立活動指導計画の様式改訂案作成、教育課程の見直しに向けた課題の整理を行った。次年度は、各プロジェクトの目的をより明確化し、課題解決を図る。
	・共有した情報を学校運営に生かすことができた と答える職員90%以上	AB評価 84.2%	B	・連携ミーティングでは、業務改善や学校課題に関する意見交換を行い、改善につなげた事例もあった。次年度は、学年主任も含めた拡大運営委員会の中で組織マネジメントに関する研修を行い、同僚性の高い職場づくりにつなげる。
・指導の充実に向けた業務の整理・精選	・授業準備の時間が増えた と答える教員90%以上	AB評価 68.0%	B	・重要な協議がない月はできるだけ会議を紙面開催にして授業準備時間の確保に努めた。 ・分掌内の引継ぎ資料がしっかり用意されているので、初めての業務でも取り組むことができた。会議内の時間配分、終了時刻の順守など、課題を感じる。 ・各係で課題を整理し、会議の内容を協議事項と紙面での連絡事項に分けることで会議時間を短縮することができた。 ・業務に偏りが大きく、特定の時期に負担感を感じている教員がいる。来年度を見据え、協力体制を工夫しているが、他分掌との連携・協力が必要である。
・周年行事に向けて	・式典、記念誌、記念品等周年行事の具体の立案、提案等	100%	A	・創立60周年記念事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践をしていくという方向性を定めた。次年度は、60周年実行委員会として学校全体で事業を進める。

(2)令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標(重点目標はゴシック体で記載)

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・災害発生時と避難生活に見通しをもって動ける防災学習の実施 ・災害時、緊急時に円滑に動けるための実効性のある訓練実施と危機管理マニュアルの見直し ・保護者対象の防災研修会を実施 ・災害時における医療的ケア物品の見直し ・全児童生徒・全職員における安否確認訓練の実施	・避難生活も含めた系統的な防災学習を実施している。 ・災害時や緊急時に自ら考えて児童生徒の安全を守れる状態になっている。 ・保護者・職員の防災意識が高まっている。
・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・緊急時対応訓練や職員研修、緊急時マニュアルの作成による人工呼吸器管理体制の構築 ・学校給食委員会による食事環境の状況把握や安全性の検証 ・動画による摂食指導の引き継ぎ ・食事カードの活用と摂食カンファレンス及び摂食研修の充実 ・性教育全体計画の活用と見直し	・学校体制における人工呼吸器管理について理解し、安全に実施できている。 ・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。 ・性教育全体計画を活用して性教育を行っている。
・多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・人権全体計画の活用・見直し ・人権教育年間計画の作成・活用、及び人権教育の視点を意識した授業の実施 ・教員の定期的な人権意識自己チェックと小集団による教職員の人権意識が高まる取組の実施	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。 ・教職員の人権意識が高まっている。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・少人数チームによる課題解決プロジェクトの実施 ・目指す児童生徒像の職員間共有 ・全教員参加型の教育課程学習会の実施	・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。
・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・中心課題の反映と適切な実態把握に基づく授業実践 ・PDCAサイクルに基づく授業改善 ・類型別校内研修による授業研究 ・授業づくりディや日常的な話し合いの場の設定	・中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業づくりを行っている。 ・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。
・教員の専門性向上	・授業づくり・ケース会議ディを設定する。 ・からだ(姿勢・呼吸)や摂食に関する研修会やカンファレンスの充実 ・教材教具、情報資源のデータ整備	・児童生徒や授業に関する話し合いの時間を設定し、日常的なOJLを実施している。 ・肢体不自由教育の専門性が向上している。
・キャリア教育の充実	・新書式で自立活動指導計画を作成し、複数の視点で実態把握し、中心課題・指導場面を設定 ・将来の姿を見据え、個の力を最大限に生かすキャリア教育の実践	・複数の視点で中心課題を設定し、指導場面を明確にし自立活動の指導を行っている。 ・キャリア教育を意識し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。
・ICTの活用 の充実	・プロジェクトチームを中心とした一人1台端末、視線入力装置、スイッチ等の活用促進 ・遠隔合同授業等における協働的な学びのある授業の充実	・個別最適な学びと協働的な学びのために、ICTを効果的に活用している。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・学校公開や青藍祭の実施 ・ホームページ、COCOO、SNS等を活用した保護者と地域向けの迅速な情報発信 ・校内外の作品展の実施 ・支援会議、ケース会議等のタイムリーな実施による校内外の支援体制の充実 ・学校間・交流籍交流での互いの理解が一層深まる交流方法・内容の工夫と事前打合の充実	・保護者が学校からの情報発信に概ね満足している。 ・ホームページ、SNS、作品展等を活用して、地域への情報発信に取り組んでいる。 ・支援会議やケース会議をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。 ・互いの理解が深まる交流学习を行っている。
・地域に根付いた学校づくり	・学校運営協議会との連携による支援体制の充実 ・地域ボランティアの活用 ・地域資源を活用した活動の充実	・地域資源を活用した学習を行っている。
・創立60周年記念事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践	・60周年実行委員会主体による周年記念事業の準備・実施	・児童生徒が60周年の歩みへの感謝の気持ちと夢を語ることができる取組をしている。

エ 共に支え合い学び合う、いきいきと働く職員集団づくり

取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標
・共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・小集団による話し合いの場を複数設定 ・職員安全委員会による職員交流の場の設定	・職場が発言や相談をしやすい雰囲気である。
・学校運営課題の解決に向けた組織的な取組	・拡大運営委員会による各部、分掌の取組の共有と連携づくり、組織マネジメント研修の実施	・拡大運営委員会で得た情報を学校運営に生かしている。
・指導の充実に向けた業務の整理・精選	・会議の効率化と精選 ・適正な集団での授業と教員配置 ・チーム内で業務進捗状況の共有 ・完全定時退勤日の設定	・授業準備や授業に関する話し合いの時間が確保できている。 ・時間外等在校時間が月45時間以内になるにタイムマネジメントをしている。

(3) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

評価基準 A＝十分目標を達成することができた
B＝おおむね目標を達成することができた
C＝あまり目標を達成することができなかった
D＝ほとんど目標を達成することができなかった

ア 安全・安心な学習・教育環境づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・事後も含めた緊急時の対応力向上	・避難生活も含めた系統的な防災学習を実施している。	AB評価 99%	A	・災害時の具体的な場面に合わせた避難方法を学んだり、非常食体験を行ったりするなど、各学部で児童生徒の実態に応じた防災学習に取り組んだ。来年度も継続して取り組む。
	・災害時や緊急時に自ら考えて児童生徒の安全を守れる状態になっている。	AB評価 92%	A	・緊急時に適切な対応を取ることができるよう、類型会等を使って訓練を行うことができた。今後は、類型ごと事例児をあげて緊急時の対応訓練に取り組み、緊急時に備えていく。
	・保護者・職員の防災意識が高まっている。	実施 100%	A	・非常食体験等を通して災害時における医療的ケア物品の見直しができた。引き続き災害時における医療的ケア内容や物品を保護者や職員間で確認をし、災害時でも児童生徒の安全を守れるようにしていく。 ・171を使った録音訓練実施率は、保護者98.5%、職員は100%であった。保護者と非常時の連絡方法を確認することで、防災意識が高まった。
・すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取組の充実	・学校体制における人工呼吸器管理について理解し、安全に実施できている。	AB評価 100%	A	・人工呼吸器管理は中学部2名が完全実施になった。引き続き小学部2名、中学部1名の学校体制による人工呼吸器管理も慎重に進めていく。来年度も新規の児童も含め職員間で連携しながら安全に実施していく。
	・個々の児童生徒に適した食と環境の提供及び摂食指導をしている。	AB評価 96.8%	A	・食事環境や食事の提供等、安全に配慮することができた。今後も校内環境の衛生管理や安全性に配慮した取り組みを行う。 ・食事カードの作成、活用は定着してきた。さらに効果的に活用するために、記入内容の確認や呼びかけの時期を設定する。 ・摂食カンファレンスは複数での検討による情報共有や他機関との連携につながるケースがあった。 ・摂食研修では、初めて摂食指導をする教員への伝達に加え、全校として本校での食事指導に関する基本的な内容や支援の共有、確認もでき有効であった。

	・性教育全体計画を活用して性教育を行っている。	AB評価 82.6%	B	・性教育全体計画を活用したと回答した教員の割合は約6割と低かった。来年度は掲示板や類型会等を使い、児童生徒の実態に合わせた性教育の内容を周知するなど、積極的な理解啓発を図っていく。
・多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・児童生徒の人権意識が高まるような指導ができている。	AB評価 100%	A	・人権教育年間指導計画を作成した。来年度は、統一された形式の指導計画を作成することで、さらに人権教育の指導を意識した授業を行っている。
	・教職員の人権意識が高まっている。	AB評価 92.8%	A	・人権について学期ごとに自己評価を行った。また各学年、類型別に話し合いを実施し、全体では講師を招いた研修を行った。小集団で互いの気付きや考えを伝え合い、共有することで、教職員の人権意識が高まった。来年度は、効果的な掲示板の活用や肢体不自由教育における視点を取り入れた人権研修を行うことで、更に人権意識を高めていく。

イ 主体的な学びと地域の中で人と共に生きる力を育む授業づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・教育課程の組織的な検討と仕組みづくり	・目指す児童生徒像に迫る教育課程について考えている。	AB評価 96%	A	・現状の課題の整理と解決方法に関する情報収集等、教育課程検討に必要な土台となる原理原則を整備、明確化することができた。また、学年主任、類型主任を軸として教員の気付きから各学部単位で教育課程の見直しに関する検討を行った。課題は、原理原則や各学部で編成し直した教育課程を実行する中で、教員一人一人が本プロジェクトの取組一つ一つのつながりを実感することである。
・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業づくりを行っている。	AB評価 96.1%	A	・自立活動指導計画による分析的な中心課題抽出と、Lマップ(Ⅱ)やSスケール(Ⅲ・訪)の活用、各教科の段階と指導内容を明記した評価規準設定(ⅡⅢ)により、自立活動と各教科双方の視点に基づいた授業について考えることができた。また、Ⅰ類型については、総合的な学習／探究の時間で働かせる各教科の見方・考え方の検討を行った。計画的に授業づくりデイを活用しながら、今年度以上に意識的に中心課題や各教科、双方の視点に基づいた授業実践を積み重ねて実践知へとつなげていく。 ・授業づくりの基となる個別の指導計画の内容を見直し、合わせた指導について、扱っている教科、段階を記入するようにした。今後は、各教科ごとの明確な目標立てや評価ができるよう検討していく。
	・授業づくりでは、個別最適な学びと協働的な学びが検討されている。	AB評価 96.1%	A	・各類型での授業研究会や1グループ1授業公開での授業を主として、個別最適な学びと協働的な学びについて検討し、単元カードや指導案の内に位置付けることができた。また、それらの実践を基にした個別最適な学びと協働的な学びの本校としての考え方を仮説的にまとめることができた。協働的な学びについては、その本質を理解した上で授業実践へとつなげていく。 ・学習指導要領の教科・段階の視点から年間指導計画の見直しを行った。今後は、年計作成→授業→見直し→作成…を繰り返していくことで、教科ごとの指導内容や学年間、学部間の系統性等を整えていく。

・教員の専門性向上	・児童生徒や授業に関する話し合いの時間を設定し、日常的なOJLを実施している。	AB評価 99%	A	・授業づくりデイを活用した授業検討によって日常的なOJLを実施することができた。各検討で重要な役割（タイムマネジメント面、合意形成面）となるファシリテーターの育成が課題である。
	・肢体不自由教育の専門性が向上している。	AB評価 97.1%	A	・各種研修等を通して知識を得る機会は設定されていた。実践力としては、外部講師のケース相談や実際の場での授業支援が有効だった。今後は、知識習得と実践の両面の取り組みを更に充実させていく。
・キャリア教育の充実	・複数の視点で中心課題を設定し、指導場面を明確にして自立活動の指導を行っている。	AB評価 97%	A	・新書式での自立活動指導計画の作成を通して、中心課題について意識したり、話し合いの効果を実感したりすることができた。課題として挙げた話し合いの場の不足、実際の指導についての検証、作成時の不安や疑問について、来年度は授業づくり・ケース会デイを活用し、話し合いや検証を行っていく。
	・キャリア教育を意識し、社会生活を送る上で必要とされる力を身に付けるような指導をしている。	AB評価 96.2%	A	・キャリアリーフレットを類型ごとに整理したことで、担当する児童生徒の身に付けたい力が明らかになった。今後は、キャリア教育で身に付けたことを次につなげるために、キャリアパスポートの充実に取り組む。
・ICTの活用の充実	・個別最適な学びと協働的な学びのために、ICTを効果的に活用している。	AB評価 96%	A	・視線入力装置を各学部に常設することにより、準備の手間が省け継続的な指導をすることができた。 ・ICT活用の実践例を整理して、データベースを作成することができた。来年度は、スイッチ関係と端末をつなげるなど、ニーズに応じた整備や実践例の紹介に取り組み、更に活用度を高めていく。 ・協働的な学びのある授業を目指し、マッチングサイトを活用して遠隔合同授業のマッチングを試みたが、相手が決まらず、実施ができなかった。来年度は協働的な学びについて、その本質を理解した上で授業実践へとつなげていきたい。その方法の選択肢として、遠隔合同授業だけでなく、校内での合同授業、地域人材の活用等を検討していきたい。

ウ 保護者、地域、関係機関と連携、協働した学校づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・保護者や地域、関係機関との連携強化と情報発信	・保護者が学校からの情報発信に概ね満足している。	AB評価 94%	A	・保護者アンケートにて、学校からの情報発信に満足している保護者が9割以上であった。 ・学校公開には放課後等デイサービスや就学前施設の職員など33名の参加者があり、本校の教育を理解していただく機会となった。来年度は、行事と重ならない2学期実施とし、校内の準備体制を整え、より参加者のニーズに合った公開を目指す。 ・青藍祭に関する情報は、ホームページやインスタグラムを活用し、保護者や地域に向けてタイムリーに発信することができた。保護者の参加に加え、卒業生や放課後等デイサービスの職員の参加もあった。来年度はより多くの方に情報発信できるよう、地区の回覧板等も活用していく。
	・ホームページ、SNS、作品展等を活用して、地域への情報発信に取り組んでいる。	AB評価 98.2%	A	・ホームページの新システム移行に伴い、閲覧者が知りたい情報にアクセスしやすいよう、ホーム画面の構成を変更した。今後は、学部共通の行事はまとめてホームページに掲載するなど、内容の分かりやすさに努め、作成者の負担減にも取り組む。 ・進路に関する情報は、進路だよりの発行、COCOOによる進路情報の提供を行った。今後も日々更新される福祉や進路に関する情報をよりタイムリーに発信していく。 ・地域向けの学校だよりは、計画通り年4回発行することができた。また、ホームページやCOCOOにもアップし、情報を発信することができた。来年度も継続する。 ・教科部会「図工・美術」と連携して、各学部1回以上、校外の作品展に出展した。また新たな展示場所として、近隣施設・店舗6カ所をお願いし、作品展示を2回実施した。来年度も各学部の協力を得ながら、地域への情報発信に取り組む。
	・支援会議やケース会議をタイムリーに開き、組織的効果的な支援を行っている。	AB評価 96.7%	A	・授業づくり・ケース会デイを生かして、必要に応じたメンバー構成で効果的にケース会を開くことができた。会議後の進捗状況や対応等について学年、類型で情報共有を確実にしながら次につなげていく。 ・進路相談会、移行支援会議など進路に関わる関係機関との会議を予定通りに進めることができた。高等部に進学しない場合の進路指導について、今年度行ったことをまとめ、次年度以降も利用できるようにする。
	・互いの理解が深まる交流・学習を行っている。	AB評価 96.9%	A	・各学部、本校児童生徒と交流校、それぞれを知る有意義な交流活動ができた。更に互いの良さが発揮できる交流活動ができるよう、事前打ち合わせを丁寧に行い、実態に合った交流内容を工夫していく。
・地域に根付いた学校づくり	・地域資源を活用した学習を行っている。	AB評価 99%	A	・地域ボランティア登録者は17人のうち12人の方に来ていただき、読み聞かせ、楽器演奏、体育的活動で交流することができた。今後は、地域資源を活用した授業を計画しやすいよう、活用例等の情報提供を行っていく。

・創立60周年記念事業を通して、感謝と夢を語る指導の実践	・児童生徒が60周年の歩みへの感謝の気持ちと夢を語ることができる取組をしている。	AB評価 95.2%	A	・キャラクターやスタンプラリー等のイベントを活用し、授業の中や休み時間に児童生徒が感謝の気持ちと夢を語ることができる取り組みを行うことができた。
------------------------------	--	---------------	---	--

エ 対話を大切にしながら、生き生きと働く職員集団づくり

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
・共に支え合い、働きがいのある職場づくり	・職場が発言や相談をしやすい雰囲気である。	AB評価 89.3%	B	・小グループ内での相談等はしやすいと感じている職員がいる一方、学部や学校全体としては相談しにくい職場であると感じている職員もいる。日常的なOJL（職員間の対等な学び合い）の実施や複数メンター制度による相談体制を整える。 ・職員交流（2回実施）は、参加者にとっては交流を深める場となったが、参加者数が少なく学校全体の交流を深める場とするには至らなかった。今後は、教職員間のよりよいコミュニケーションの在り方を職員安全衛生委員会からも情報発信する。
・学校運営課題の解決に向けた組織的な取組	・拡大運営委員会で得た情報を学校運営に生かしている。	AB評価 95.2%	A	・組織マネジメント研修として、OJLや学校経営参画の基本的な姿勢や視点についての講義、演習等を行った。また、部・課・学年運営のマネジメントに関する課題の共有、OJLの視点による分析、アプローチ方法の検討を行った。次年度もOJLの研修を継続し、得た情報を基に実践した内容の評価、改善の共有も行うことで、学校運営に生かしていく。
・指導の充実に向けた業務の整理・精選	・授業準備や授業に関する話し合いの時間が確保できている。	AB評価 93.3%	A	・NESパソコンのメモリを増設したことで、パソコンの動作が改善されて時短につながった。 ・スプレッドシートによる情報共有は、連絡事項をリアルタイムに共有でき、打ち合わせの時短や業務効率化につながった。
	・時間外等在校時間が月45時間以内になるようにタイムマネジメントをしている。	AB評価 96.3%	A	・Googleチャットはスピーディーな情報共有をすることができ、分掌会での連絡事項が少なくなり時短につながった。今後は、校内でのルールを整えて、安全かつ効果的に利用し続けていくことが課題である。 ・分掌によっては削減できる業務が限られており、人員配置による業務負担が大きい面があった。今後も人員配置のバランスを学校全体で考えるとともに、課内での役割分担や協力体制を見直していく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
5 年度	多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と教員	- 道徳教育全体計画に基づく個々の目標立案ができた。今後は、道徳教育推進委員会を中心に、道徳教育の授業づくりについて検討していく。 - 人権教育年間指導計画作成に向け、全校統一で計画・実施した内容の整理をした。今後は各授業集団の取り組みを整理し年間指導計画の完成を目指すとともに、人権意識を高める取組の工夫を行う。
	「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	- 教科等横断的な視点に立った年間指導計画の作成と授業実践について、年間指導計画の話し合い日を設定したことで、グループ内の子の目標も合わせて行うことができ、特に国語算数は他教科と関連づけて指導することができた。 - 外部講師を招聘しての公開授業研究会を12月に行った。類型ごとによる話し合いや外部講師からの助言をいただき、個々の実践に生かすことができた。
	地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実	- 地域ボランティアを募集した。7人の登録者があり絵本の読み聞かせ、花の苗植え等に協力いただいた。 - 全ての学部において、目的達成に向けた直接交流を実施できた。引き続き、実態に合った目標検討を行い、相手校との共通理解を丁寧に行っていく。
	学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み	I C T 活用の推進、自立活動指導計画の様式改訂案作成、教育課程の見直しに向けた課題整理を行った。次年度からは各課題プロジェクトチームが連携し、課題解決に向け3年計画で取り組んでいく。
6 年度	多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と教員	人権教育年間指導計画を作成することで、計画的な授業実践へとつながっている。今後は、指導計画の様式を統一し、さらに人権教育の指導に視点をあてた授業が行えるよう取り組んでいく。
	「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	- 自立活動指導計画による分析的な中心課題抽出とツールの活用、各教科の段階・指導内容を示した評価基準設定により、自立活動と各教科双方の視点に基づいた授業づくりを行うことができた。引き続き、中心課題や各教科、双方の視点に基づく授業実践を積み重ねていく。 - 外部講師を招聘しての公開授業研究会を12月に行った。類型ごとによる話し合いや外部講師からの助言をいただき、個々の実践に生かすことができた。
	地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実	- 地域ボランティア9人に協力を依頼し、絵本の読み聞かせや楽器演奏、体育的活動を行うことができた。地域資源を活用した授業を計画しやすいよう、活用例等の情報提供を行っていく。 - 各学部で学校間交流を実施した。互いの良さが発揮できるよう、打ち合わせを綿密に行い活動できた。
	学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み	教育課程の編成では、現状の課題の整理と解決方法を見出すための情報収集等、主任等の意見を取り入れ話し合いを進めることができた。各学部で再編成した教育課程を実行しながら、一人一人の教員が課題意識を持ち、更に話し合いを深めていくことが課題である。

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

区分	職名	本 務 職 員												臨時的任用職員・会計年度任用職員							合 計
		教 育 職 員						行 政 職 員						教 諭（任）	教 諭（臨）	任期付短時間勤務教職員	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計	
		校 長	副校長	教 頭	教 諭	養護教諭	栄養教諭	小 計	事務長	主 査	主 任	主 事	小 計								
転出者	1	1	1	18			21	1			1	2	23		2					2	25
退職者				5			5					0	5			1	2		1	4	9
転入者			1	15			16	1	1			2	18		2	1				3	21
新任者	1	1		4			6					0	6		2		2	1		5	11
役職定年							0					0	0							0	0
差引増減	0	0	0	△ 4	0	0	△ 4	0	1	0	△ 1	0	△ 4	0	2	0	0	1	△ 1	2	△ 2

(2) 現員数 (令和7年4月1日現在)

(単位：人)

職名	本 務 職 員													臨時的任用職員・会計年度任用職員								合 計
	教 育 職 員							行 政 職 員						教 諭 (任)	教 諭 (臨)	任期付短時間勤務教職員	医療的ケア看護職員	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	臨時等計		
	校 長	副校長	教 頭	教 諭	養護教諭	栄養教諭	小 計	事務長	主 査	主 任	主 事	小 計	本務計									
職員数	1	1	1	95	2	1	101	1	3	0	0	4	105	2	9	2	14	8	1	36	141	

(3) 健康管理について

<実施>

ア 健康診断における健康管理

- (ア) 再検・精密検査者に対して早期受診の勧めを心掛けた。(全員受診)
- (イ) 健康管理医による指導に基づき、早期治療及び経過観察等の措置を促した。

イ 日常の健康管理

- (ア) 教職員の身体的健康や精神衛生に配慮し、「ヨーガ」の実施をした。
- (イ) 第2水曜日を定時退勤日とし、疲労の蓄積防止を図った。

<計画>

ア 健康診断における健康管理

- (ア) 再検・精密検査者に対して、早期受診の勧めを心掛ける。
- (イ) 健康管理医による指導に基づき、早期治療及び経過観察等の措置を促す。

イ 日常の健康管理

- (ア) 教職員の心身の健康に配慮し、常時健康相談や受診指導を実施する。
- (イ) 教職員の身体的健康や精神衛生に配慮し、健康づくり支援を実施する。
- (ウ) 健康管理医による健康指導は、健康管理対策を中心としたものを4回以上実施する。
- (エ) 腰痛予防対策としてストレッチや2人で介護すること呼びかける。
- (オ) 第2水曜日の定時退勤を呼びかけ疲労の蓄積を防止する。
- (カ) 出張カウンセリングやカウンセリング通信の紹介を行う。

(4) 教職員の研修について

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
5 年 度	ア 「主体的・対話 的で深い学び」 をめざした授業 づくり	・継続できる授業づくりの評価、改善の方法を学部に応じた形で検討し、実践する。 ・「自ら学び、自ら表現し、自立と社会参加を実現できる人」を目指した各類型での校内授業研究と公開授業研究会を実施する。	・教員間で授業改善に取り組み、目標や支援を共通理解しながら授業を行うことができた。 ・校内授業研究、公開授業研究会の事後検討会では可視化シートを基に目標に対する児童生徒の表れ、学び方、それに対する手立てについて話し合い、授業改善につなげることができた。
	イ 教員の専門性向上	・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修の実施する。 ・OJTの活用により、若手教員の基礎力向上や中堅教員の指導力向上を図る。 ・外部専門家（PT、OT、摂食）による訪問指導を実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・各学部会、学習グループ会、専門性プロジェクトグループ学習会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。	・肢体不自由特別支援学校で必要な知識や技能を伝達した。 ・若手教員と中堅教員でペアを固定することで、若手教員が日頃の悩みの解決に役立てることができた。今後はOJL（職員間の対等な学び合い）体制に基づく職場風土づくりを行う。 ・外部講師研修では、児童生徒の個々の実態に合わせた指導方法や技術を学び、実際の指導に生かすことができた。 ・公開授業研究会で各類型ごとに外部講師を招聘した。単元構成や授業展開、支援方法等について助言を受け授業改善につなげることができた。 ・指導ハンドブックは、ワンポイントレッスンや自立活動オリエンテーションなど様々な場で活用することができた。
	ウ 初任者研修、2 年次研修、3年 次研修、6年次 研修、中堅教諭 等資質向上研修 の推進	・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。	・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。必要に応じ、相談、指導を行っている。

年度	目 的	研修内容	成果及び課題
6 年 度	ア 「主体的・対話 的で深い学び」 をめざした授業 づくり	・分析的な実態把握から、一人一人の課題や学び方に応じた授業づくりを行う。 ・教科等の視点による学習評価、指導の評価に基づく授業改善に取り組むS-PDCAサイクルを確立する。	・ラーニングマップやSスケールの活用で、国語・算数(数学)の実態を整理・分析し直すことへつながった。 ・自立活動指導計画を用い、児童生徒個々の中心課題抽出を分析的に行うことで授業改善へとつながり、児童生徒の「できた」「分かった」を積み重ねた確かな学びへとつながった。
	イ 教員の専門性向上	・年度当初、新任・初任者向けに自立活動オリエンテーションや摂食基礎研修の実施する。 ・OJTやOJLの活用により、若手教員の基礎力向上や中堅教員の指導力向上を図る。 ・外部専門家(PT、OT、摂食)による訪問指導を実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・各学部会、学習グループ会、研修会等で、指導ハンドブックの活用を推進する。	・肢体不自由特別支援学校に必要な知識や技能を伝達した。 ・学年主任や分掌課長を中心としたOJL(教師間の対等な学び合い)の取組や若手教員と中堅教員をグループングしたOJTの取り組みにより、教職員の孤立を防ぎ、互いに支え合う風土の中で、個々の専門性向上へとつながった。 ・外部講師研修では、児童生徒の個々の実態に合わせた指導方法や技術を学び、実際の指導に生かすことができた。 ・公開授業研究会で各類型ごとに外部講師を招聘した。単元構成や授業展開、支援方法等について助言を受け授業改善につなげることができた。 ・指導ハンドブックは、職員研修や自立活動オリエンテーションなど様々な場で活用することができた。
	ウ 初任者研修、2 年次研修、3年 次研修、6年次 研修、中堅教諭 等資質向上研修 の推進	・初任者研修では、指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。 ・各経験段階に応じ、自己で課題を設定し、課題に沿った研修を行い、理論や技術、子どもの見方、学校運営への参画等の資質を高める。	・指導教員を中心に各教科担当、管理職、分掌課長等からの講話や演習を設け計画的に実施している。 ・各経験段階に沿って企画された研修を実施している。また、管理職や部主事と面談を行って自己課題を確認し合う等、必要に応じ、相談、指導を行っている。

6 防災対策について

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
5 年 度	ア 非常時に備えた実践的な訓練の実施	- 様々な状況を想定した避難訓練の実施 - 緊急時下校訓練の改善と実施 - 不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認 - COC00開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底	- 避難訓練 年2回 - 簡易避難訓練 年2回 - 緊急下校訓練 年1回 - 簡易不審者対応訓練 年1回 - COC00開封確認訓練 「171」訓練 年1回	- 想定訓練を1回、抜き打ちの訓練を3回実施した。来年度は想定訓練を3回に増やし、発災時の基本的な対処の仕方を身に付けられるようにする。 - 受け渡し方法を変更して2年目のとなり、前年度よりスムーズに実施できた。今後は誘導員の動きを見直し、更なる改善に努めたい。 - 不審者対応訓練を児童生徒のいる時間帯に実施した。今後はより実践に即した訓練を目指し、警察署等の関係機関と連携して取り組んでいく。 - COC00には全校の児童生徒及び職員が登録されている。「171」訓練は年2回実施した。来年度は参加率を上げられるよう、周知方法や内容を工夫する。
	イ 非常時における対応の立案・検証・備品の点検をする。	- 緊急時の職員参集体制の立案・確認 - 発災後対応シミュレーション・引き渡し訓練などについての研修 - 危機管理マニュアルの見直し - 児童生徒個人用避難用品の検討及び定期的な入れ替え - 学校用防災備蓄用品の点検・補充	- 防災会議 年1回以上 - 年1回以上 - 年1回以上 - 年2回 - 年1回以上	- より実際の計画書になるよう年度当初の作成と説明を行った。 - 外部講師を招き職員防災研修を実施した。前年度に引き続き、IDEAという手法で発災後の動きについて学び、知識・技能を深めることができた。 - 各課と連携し、危機管理マニュアルの見直し、改訂を行った。 - 年2回文書で呼び掛けるだけでなく、必要に応じて個別に言葉を掛け、定期的な入れ替えを促した。 - 夏季休業中に防災備蓄用品の点検を行った。
	ウ 安全な教育環境の整備をする。	- 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 - 危険箇所校、予想される危険な状況について外部の助言を受ける - 教室等の校内整備、環境備品の管理、花壇の割り振り、点検等、安全な環境づくり	- 施設維持管理点検 年1回 - 年1回以上 - 職員作業 年3回	- 月1回の点検を実施した。校内の危険箇所や不具合等について複数課で確認、即改善し、安全な教育環境維持に努めた。 - 地域防災会議に参加し、浜松市の担当者と福祉避難所の開設等について話し合い、共通理解することができた。 - P T Aと協力しながら校内外の清掃、花壇作りを行った。
	エ 避難生活も含めた防災学習の実施	防災を含めた防災学習の実施	各学部で実施	各学部の児童生徒の実態に合わせて、非常食体験を含めた防災学習を実施した。今後も継続して取り組む。

年度	重点目標	取組内容	主たる活動	成果と課題
6 年 度	ア 非常時に備えた実践的な訓練の実施	- 様々な状況を想定した避難訓練の実施 - 緊急時下校訓練の改善と実施 - 不審者への対応や児童生徒の避難誘導手順の確認 - COC00開封確認訓練 伝言ダイヤル171訓練を実施し、保護者、職員の非常時の連絡方法確認の徹底	- 避難訓練 年2回 - 簡易避難訓練 年4回 - 緊急下校訓練 年1回 - 不審者対応訓練 年1回 - COC00開封確認訓練 「171」訓練 年1回	- 災害時の具体的な場面に合わせて避難訓練を行うことで、実際的な避難方法や基本的な対処方法について学ぶことができた。今後も対応の基本を確実に身に付ける。 - 教員の役割を理解して取り組むことができ、ケースに合わせた臨機応変な対応もできつつある。今後も継続した取り組みを行う。 - 不審者対応訓練を実施し、具体的な対応方法や留意点について整理できた。来年度は警察署と連携し、より専門的な知識を得られるように取り組んでいく。 - COC00開封訓練、171訓練を実施した。171訓練では、教職員100%、保護者98.5%が実施でき、災害時の安否確認方法を確認することにつながった。
	イ 非常時における対応の立案・検証・備品の点検をする。	- 緊急時の職員参集体制の立案・確認 - 引き渡し訓練についての研修 - 危機管理マニュアルの見直し - 児童生徒個人用避難用品の検討及び定期的な入れ替え - 学校用防災備蓄用品の点検・補充	- 防災会議 年1回以上 - 年1回以上 - 年1回以上 - 年2回 - 年1回以上	- より実際的な計画書になるよう年度当初に作成と説明を行った。 - 訓練前に災害時に児童生徒を引き渡す際の流れを確認し、訓練後は反省を行った。毎年繰り返し研修を行うことで、教職員の見通しを持った動きへとつながっている。 - 南海トラフ臨時情報発令の経験から、校内基準の見直しを行った。 - 非常食体験等を通じて災害時に必要な物品について調整できた。引き続き保護者と連携して必要物品の確認を行う。 - 保護者に防災備蓄用品(特に医療的ケアで必要な物品)のアンケートを行い、ポータブル電源等を購入した。また、南海トラフ臨時情報発令後に、防災備蓄品の確認を行った。
	ウ 安全な教育環境の整備をする。	- 月例施設点検の実施と迅速な補修対応 - 危険箇所、予想される危険な状況について外部の助言を受ける - 教室等の校内整備、点検等、安全な環境づくり	- 施設維持管理点検 年1回 - 年1回以上 - 職員作業 年3回	- 月1回の点検を実施した。校内の危険箇所や不具合等について複数課で確認、即改善し、安全な教育環境維持に努めた。 - 年2回の地域防災連携連絡会に参加し、自主防災隊、市職員との防災連携を確認することができた。地域課題について連携した対応を行っていく。 - P T Aと協力しながら校内外の清掃、花壇作りを行った。
	エ 避難生活を含めた防災学習の実施	防災を含む安全に関する教育のイメージを基に全体のイメージを踏まえ、各学部で系統的に取り組む。	各学部で実施	各学部の児童生徒の実態に合わせて、非常食体験を含めた防災学習や浜松市防災センターへの校外学習等を行った。今後も継続して取り組む。

7 学校開放について

静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱及び静岡県立西部特別支援学校の施設等の開放に関する細則に基づき、障害者団体の活動に学校の施設を開放した。

令和4年度はwithコロナ時代への移行に伴い、利用日数及び利用者数は令和3年度より増加に転じた。令和5年度はコロナ感染症が5類移行となり、少しではあるが更に令和4年度より増加している。

施設名	利用内容	5年度			6年度			備考
		利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	利用日数	利用者数	利用者負担金 (電気料)	
機能訓練室	親子学習会 (ラッコの会)	13 日	135 人	1,108	12 日	114 人	959	
音楽室	演奏・発表の練習 (バンドサークル)	13 日	74 人		13 日	70 人		
計		26 日	209 人		25 日	184 人		

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
学校教育に関すること	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、 第 74 条、第 76 条、第 77 条、第 82 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 4 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 学校給食法（第 9 条、第 11 条、第 12 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第 1 条～第 4 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児 童生徒援助費補助金交付要綱

学校施設の概要

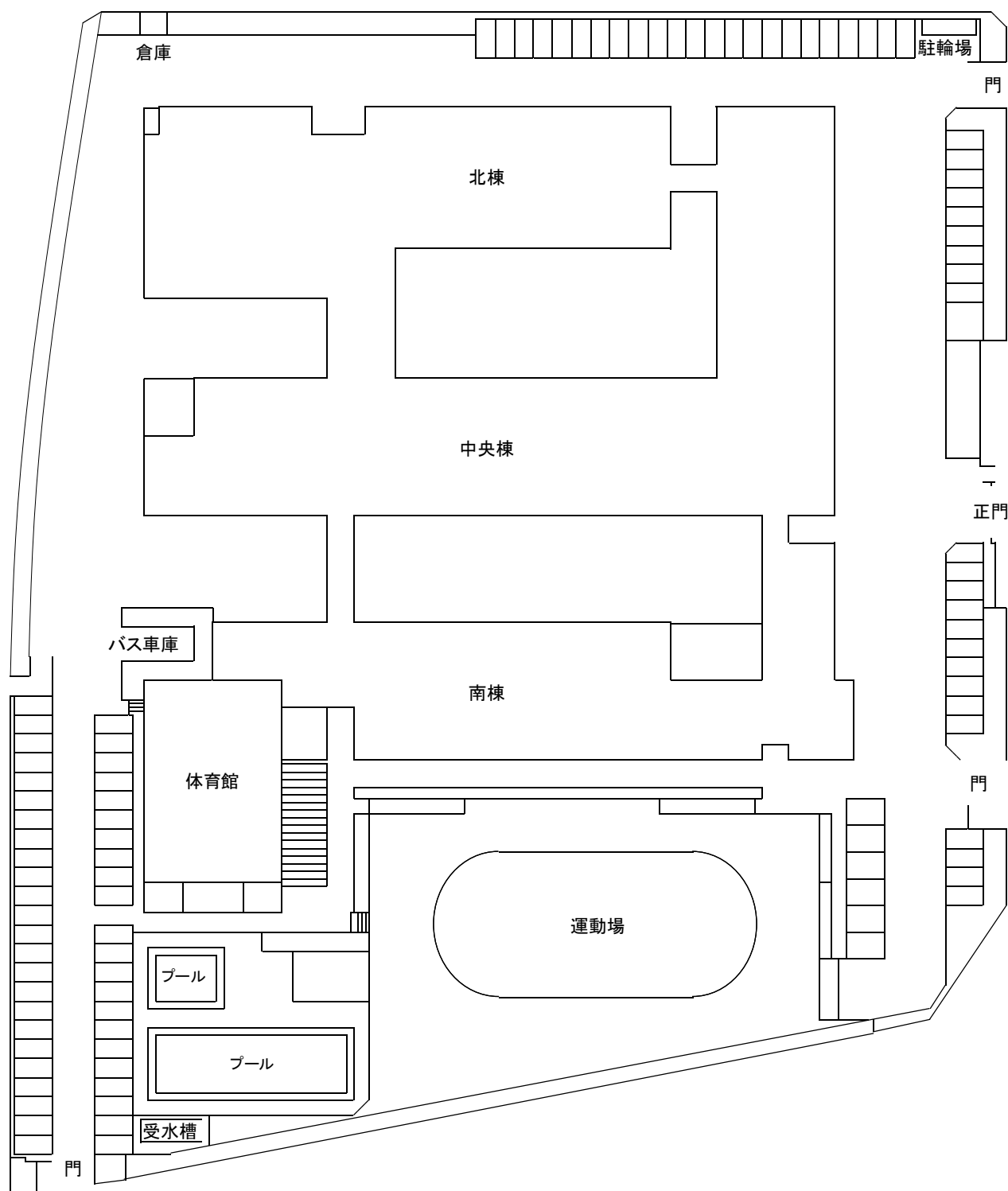
1 面積及び所有区分

(令和7年2月28日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		18,298.99	18,298.99					
内 訳	校 舎 敷 地	16,490.23	16,490.23					
	運 動 場 敷 地	1,765.01	1,765.01					
	そ の 他 の 敷 地	43.75	43.75					
校 舎		建5,834.34 延9,054.69	建5,834.34 延9,054.69					
体 育 館		建 679.48 延 646.28	建 679.48 延 646.28					
その他の建物		建 246.12 延 246.12	建 246.12 延 246.12					
プ ー ル		2個	2個					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	18,298.99㎡	9,054.69㎡	1,765.01㎡
県平均	18,814.78㎡	6,361.36㎡	5,244.39㎡

在 籍 生 徒 調

(令和7年2月28日現在)

学年	学 部		小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計			
	区分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者			4	4	8		7	4	11	18	7	10	17		18	18	36
	増 加 減 少																	
	現 在			4	4	8		7	4	11		7	10	17		18	18	36
2年	入 学 者			7	5	12		4	2	6	18	6	2	8		17	9	26
	増 加 減 少				1	1		1		1		1		1		1	1	2
	2年時当初			7	4	11		5	2	7		5	2	7		17	8	25
	増 加 減 少																	
	現 在			7	4	11		5	2	7		5	2	7		17	8	25
3年	入 学 者			3	3	6		13	5	18	18	9	7	16		25	15	40
	増 加 減 少																	
	2年時当初			3	3	6		13	5	18		9	7	16		25	15	40
	増 加 減 少				1	1											1	1
	3年時当初			3	2	5		13	5	18		9	7	16		25	14	39
	増 加 減 少				1	1											1	1
	現 在			3	1	4		13	5	18		9	7	16		25	13	38
4年	入 学 者			10	7	17										10	7	17
	増 加 減 少																	
	2年時当初			10	7	17										10	7	17
	増 加 減 少				1	1											1	1
	3年時当初			10	6	16										10	6	16
	増 加 減 少																	
	4年時当初			10	6	16										10	6	16
	増 加 減 少																	
	現 在			10	6	16										10	6	16
5年	入 学 者			4	10	14										4	10	14
	増 加 減 少																	
	2年時当初			4	10	14										4	10	14
	増 加 減 少			1		1										1		1
	3年時当初			3	10	13										3	10	13
	増 加 減 少			1		1										1		1
	4年時当初			4	8	12										4	8	12
	増 加 減 少				1	1											1	1
	5年時当初			4	8	12										4	8	12
	増 加 減 少				1	1											1	1
	現 在			4	7	11										4	7	11
6年	入 学 者			7	3	10										7	3	10
	増 加 減 少																	
	2年時当初			7	3	10										7	3	10
	増 加 減 少																	
	3年時当初			7	3	10										7	3	10
	増 加 減 少			1		1										1		1
	4年時当初			6	3	9										6	3	9
	増 加 減 少																	
	5年時当初			6	3	9										6	3	9
	増 加 減 少			1		1										1		1
	6年時当初			7	3	10										7	3	10
	増 加 減 少				1	1											1	1
	現 在			7	2	9										7	2	9
合 計				35	24	59		25	11	36		21	19	40		81	54	135

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学 科 別		高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）	高等部（普通科）
生 徒 定 員 (A)		18	18	18	18	18
志願者数	男	8	3	9	6	6
	女	5	7	7	3	8
	計 (B)	13	10	16	9	14
受検者数	男	8	3	9	6	6
	女	5	7	7	3	8
	計 (C)	13	10	16	9	14
合格者数	男	8	3	9	6	6
	女	5	7	7	3	8
	計 (D)	13	10	16	9	14
志願倍率 (B)/ (A)		0. 72	0. 56	0. 89	0. 50	0. 78
受検倍率 (C)/ (A)		0. 72	0. 56	0. 89	0. 50	0. 78
入学者数	男	8	3	9	6	6
	女	5	7	7	2	8
	計 (E)	13	10	16	8	14
充足率 (E)/ (A)		0. 72	0. 56	0. 89	0. 44	0. 78

卒 業 生 の 動 向 調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		12			12
その他高等学校等					
大学等	大学（学部）				
	短期大学（本科）				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校（専門課程）					
専修学校（一般課程）・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上 記 以 外 ※		6	16		22
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		18	16		34

（再掲）「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設		6	12		18
（うち就労系支援事業利用者）			(5)		(5)
医療機関			4		4
計		6	16		22

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

市町名	浜松市	湖西市	磐田市	袋井市	掛川市	菊川市	その他	合 計
生徒数	121	3	3	1	2	1	4	135
構成比%	89.6	2.2	2.2	0.8	1.5	0.7	3.0	100.0

(2) 通学方法

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	スクールバス	自動車	交通機関	訪問教育	合 計
生徒数	26	82	0	27	135
構成比%	19.3	60.7	0.0	20.0	100.0 %

(3) 訪問教育の状況

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

訪問教員等			市町	浜松市	掛川市	袋井市	磐田市	その他	計
小・中学部	教諭	8	小学部	10	0	0	0	2	12
	講師	0	中学部	4	0	1	1	2	8
高等部	教諭	3	高等部	4	2	0	0	1	7
	講師	0							
計		11	計	18	2	1	1	5	27

2 部(クラブ)の加入状況

中学部

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	3	0		3
男子	1年	0	7	7
	2年	0	5	5
	3年	0	11	13
	計(A)	0	23	25
	構成比%	0.0	92.0	100.0
女子	1年	0	4	4
	2年	0	2	2
	3年	0	4	5
	計(B)	0	10	11
	構成比%	0.0	90.9	100.0
合計	(A+B)	0	33	36
	構成比%	0.0	91.7	100.0

高等部

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数	3	0		3
男子	1年	0	6	7
	2年	0	4	5
	3年	0	5	9
	計(A)	0	15	21
	構成比%	0.0	71.4	100.0
女子	1年	0	8	10
	2年	0	2	2
	3年	0	5	7
	計(B)	0	15	19
	構成比%	0.0	78.9	100.0
合計	(A+B)	0	30	40
	構成比%	0.0	75.0	100.0

3 障害別児童生徒数

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数
小学部	単一障害	0	1	1	0	0	1	3	3
	重複障害	8	10	3	16	11	8	56	18
	肢体重複								
	合 計	8	11	4	16	11	9	59	21
中学部	単一障害	0	2	3				5	2
	重複障害	11	5	15				31	9
	肢体重複								
	合 計	11	7	18				36	11
高等部	単一障害	3	0	3				6	2
	重複障害	14	7	13				34	10
	肢体重複								
	合 計	17	7	16				40	12

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年2月28日現在)(単位:人)

区 分	脳性まひ	水頭症	その他の 脳性疾患	二 分 脊 椎	脊 髄 損 傷	進行性筋 ジストロフィ	その他の 筋疾患	先天性 形成不全	その他	合 計
小学部	11	2	11	0	0	2	0	1	20	47
中学部	13	1	3	1	0	2	0	0	8	28
高等部	9	0	6	1	0	8	0	1	8	33
訪 問	8	0	11	0	0	0	1	0	7	27
計	41	3	31	2	0	12	1	2	43	135

特別支援学校における生産物売払調

令和 6 年度

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

	主な生産品目			
令和 6 年度	<手芸品・工作物> バスボム、A 5 ノート、ポチ袋、クリアファイル、エコバック、サシェ、名刺入れ、コースター			
	① 売払金額	64,400 円	② 前年度との差額	△9,650 円
令和 5 年度	<手芸品・工作物> ティッシュカバー、カレンダー、メモ帳（小・大）、ポチ袋、コインケース、ペンケース、キーホルダー			
	① 売払金額	74,050 円	② 前年度との差額	550 円
令和 4 年度	<手芸品・工作物> 水筒ケース、カレンダー、コインケース、ペンケース、名刺入れ、結束バンド、メモ帳（小・大）、ポチ袋			
	① 売払金額	73,500 円	②前年度との差額	7,300 円

* 過去 3 年分を記載すること。

預 金 調

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0022088	静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 鈴木 ゆかり	5,000	交際費・給与等
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0246631	(自振口)静岡県立西部特別支援学校 資金前渡者 鈴木 ゆかり	0	公共料金等引落
静岡銀行 三方が原支店	無利息型 普通預金	0580707	静岡県立西部特別支援学校 奨励費代理受領者 鈴木 ゆかり	0	特別支援教育就学 奨励費
残 高 合 計				5,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和5年度)
(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和4年度						令和5年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
郵券	63 円券	0	0	1	63	1	63	0	0	0	0	0	0	0	0	文書等郵送用
	84 円券	17	1,428	149	12,516	157	13,188	9	756	117	9,828	93	7,812	33	2,772	
	94 円券	7	658	14	1,316	12	1,128	9	846	15	1,410	16	1,504	8	752	
	120 円券	7	840	11	1,320	8	960	10	1,200	5	600	3	360	12	1,440	
計			2,926		15,215		15,339		2,802		11,838		9,676		4,964	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年2月28日現在)
(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和5年度						令和6年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
郵券	16 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	7	112	7	112	0	0	文書等郵送用
	20 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	12	240	10	200	2	40	
	26 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	5	130	5	130	0	0	
	84 円券	9	756	117	9,828	93	7,812	33	2,772	40	3,360	73	6,132	0	0	
	94 円券	9	846	15	1,410	16	1,504	8	752	0	0	8	752	0	0	
	110 円券	0	0	0	0	0	0	0	0	61	6,710	34	3,740	27	2,970	
	120 円券	10	1,200	5	600	3	360	12	1,440	0	0	12	1,440	0	0	
計			2,802		11,838		9,676		4,964		10,552		12,506		3,010	

材 料 品 受 払 調

(令和5年度)

区分 品名	4 年 度						5 年 度								摘 要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	
布	枚 0	円 0	枚 2	円 4,290	枚 2	円 4,290	枚 0	円 0	枚 2	円 5,368	枚 2	円 5,368	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	1	39,040	1	39,040	0	0	2	38,300	2	38,300	0	0	
木材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	3	43,330	3	43,330	0	0	4	43,668	4	43,668	0	0	

材 料 品 受 払 調

(令和6年度)

(令和7年2月28日現在)

区分 品名	5 年 度						6 年 度								摘 要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	数量	金 額	
布	枚 0	円 0	枚 2	円 5,368	枚 2	円 5,368	枚 0	円 0	枚 38	円 35,189	枚 38	円 35,189	枚 0	円 0	
紙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
牛革	0	0	2	38,300	2	38,300	0	0	0	0	0	0	0	0	
木材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	4	43,668	4	43,668	0	0	38	35,189	38	35,189	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち、令和4年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		16,710,985	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		11,608,850	
計					24,587,310	28,319,835	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
計					1,045,000	0	0
(16) 公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,558,480	
計					1,189,100	1,558,480	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		71,500	
計					87,500	71,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年2月28日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	13,153,505	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	9,821,625	0
計					22,975,130	0
(14) 工事請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	660,000	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	238,700	0
計					898,700	0
(18) 負担金、補助金及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	100,000	
計					100,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和5年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) スクールバス 運行管理 業務	大新東(株)静岡 岡営業所	円 36,736,284	円 33,264,000	円 0	円 33,264,000	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	円 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 924,000 11,088,000	運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 624日	R5長期
2	学校給食業 務	(有)双葉利修 庵	39,863,008	33,184,800	0	33,184,800	一般	2.8.3 ～ 5.7.31	(累計金額) 5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 小計	(29,497,600) 921,800 921,800 921,800 921,800 3,687,200	給食の調理及 び主食・副食 配膳業務 給食実施日数 587日	R2長期
3	学校給食業 務	(有)双葉利修 庵	38,602,971	35,164,800	0	35,164,800	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 976,800 7,814,400	給食の調理及 び主食・副食 配膳業務 給食実施日数 581日	R5長期
4	エレベーター 保守点 検業務	三菱電機ビ ルソリューションズ (株)中部支社 静岡支店	1,758,070	1,478,400	0	1,478,400	随契	5.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 184,525 88,000 88,000 220,825 88,000 88,000 184,525 1,478,400	エレベーターの保守 管理業務 エレベーター N:2台 遠隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)
5	ガスヒートポン プエアコン保守 点検業務	つばい工業 (株)	847,000	847,000	0	847,000	随契	5.6.5 ～ 6.3.31	6.4.30	847,000	ガスヒートポン プエアコンの保 守点検調整	随契1号 (少額)
6	医療的ケア児 就学支援事業 訪問看護 業務	医療法人社 団静岡健生 会訪問看護 ステーションあす なる	731,810	731,810	0	731,810	随契	5.6.23 ～ 6.3.29	5.8.31 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	55,870 122,740 122,305 83,805 82,935 55,870 128,240 66,870 718,635	在校中の医 療的ケア児就 学支援事業	随契1号 (少額)
7	医療的ケア児 就学支援事業 訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団	857,450	857,450	0	857,450	随契	5.6.29 ～ 6.3.29	5.8.31 5.10.31 5.11.22 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	89,100 89,650 89,650 145,200 89,100 84,150 89,650 56,100 732,600	在校中の医 療的ケア児就 学支援事業	随契1号 (少額)
8	医療的ケア児 就学支援事業 訪問看護 業務	医療法人社 団福在会磐 田住宅医療 クリニック	838,750	838,750	0	838,750	随契	5.6.29 ～ 6.3.29	5.8.31 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6.1.22 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	33,550 128,700 134,200 33,550 89,650 89,650 66,550 89,650 665,500	在校中の医 療的ケア児就 学支援事業	随契1号 (少額)
9	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	(株)太平洋セ メント	53,625	53,625	0	53,625	随契	5.7.14 ～ 5.9.29	5.9.12	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ケリストラッ プ)	随契1号 (少額)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
10	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団	738,100	738,100	0	738,100	随契	5.8.29 ～ 6.3.29	5.10.31 5.11.22 5.12.27 6.1.22 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	128,700 133,650 33,550 100,650 100,650 112,200 33,550 642,950	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
11	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団訪 問看護ステ ーション三方原	541,200	541,200	0	541,200	随契	5.9.21 ～ 6.3.29	5.11.30 5.12.27 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	67,100 90,200 61,600 56,650 56,650 22,550 354,750	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
12	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱環吉	99,000	99,000	0	99,000	随契	5.9.22 ～ 5.12.28	5.12.27	99,000	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
13	医療的ケア 就学支援事 業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団訪 問看護ステ ーション三方原	224,400	224,400	0	224,400	随契	5.12.22 ～ 6.3.29	6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	11,550 44,550 28,050 84,150	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)
14	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱太平洋セ ミース	53,625	53,625	0	53,625	随契	6.3.1 ～ 6.3.29	6.4.16	53,625	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ケリストラ ブ)	随契1号 (少額)
	事務関係 計	14件								28,319,835		
	合 計	14件								28,319,835		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考1	自家用電気 工作物保安 管理業務	遠鉄アシス ト㈱		4,625,800	0	4,625,800		5.4.1 ～ 6.3.31			自家用電気 工作物 月次点検5 回 年次点検1 回	浜松城北工 業高校
参考2	浄化槽保守 点検業務	管理事業(有)		3,069,110	-29,480	3,039,630		5.4.1 ～ 6.3.31			し尿浄化槽 N:2基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考3	可燃物収集 運搬処分業 務	環境保全㈱		運搬料1回 660円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 660円 処分料1kg 13.2円		5.4.10 ～ 6.3.29			可燃ごみの 処理業務 開校日は毎日 8月は月5回	浜松大平台 高校 単備契約
参考4	プール浄化 装置保守点 検業務	清化工業㈱		998,800	0	998,800		5.4.10 ～ 5.11.30			プール浄化 装置保守点 検	浜松東高校
参考5	建築物環境 衛生管理業 務	㈱シービー エム		7,773,260	0	7,773,260		5.4.1 ～ 6.3.31			建築物環境 衛生管理	浜松西高校
参考6	消防用設備 保守点検業 務	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		19,030,000	0	19,030,000		5.4.1 ～ 6.3.31			自動火災報 知設備、防 排煙設備、 屋内消火栓 設備、非常 用放送設 備、誘導灯 設備、消火 器、自家発 電設備 機器点検1 回 総点検1 回	浜松湖北高 校
参考7	建築基準法 第12条に基 づく定期点 検業務	(有)山ロー級 建築士事務 所		2,640,000	0	2,640,000		5.11.27 ～ 6.3.26			建築基準法 第12条に基 づく点検	浜北西高校
参考8	学校警備業 務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R1長期
	計	8件										

委託料に関する調

(令和6年度)
(令和7年2月28日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) スクールバス 運行管理 業務	大新東機静岡 岡営業所	円 36,736,284	円 33,264,000	円 0	円 33,264,000	一般	5.4.1 ～ 8.3.31	(累計金額) 6.5.31 924,000 6.6.28 924,000 6.7.31 924,000 6.8.30 924,000 6.9.30 924,000 6.10.31 924,000 6.11.29 924,000 6.12.26 924,000 7.1.31 924,000 7.2.28 924,000 小計 9,240,000	円 (110,88,000) 運行管理業務 スクールバス N:2台 業務日数 624日	R5長期	
2	学校給食業 務	南双葉利修 庵	円 38,602,971	円 35,164,800	円 0	円 35,164,800	一般	5.8.1 ～ 8.7.31	(累計金額) 6.5.31 976,800 6.6.28 976,800 6.7.31 976,800 6.8.30 976,800 6.9.30 976,800 6.10.31 976,800 6.11.29 976,800 6.12.26 976,800 7.1.31 976,800 7.2.28 976,800 小計 9,768,000	給食の調理及 び主食・副食 配膳業務 給食実施日数 581日	R5長期	
3	エレベーター保守点 検業務	三菱電機ビル ソリューションズ 機中部支社 静岡支店	円 1,570,140	円 1,570,140	円 0	円 1,570,140	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 92,400 6.6.28 92,400 6.7.31 198,660 6.8.30 92,400 6.9.30 92,400 6.10.31 198,660 6.11.29 92,400 6.12.26 92,400 7.1.31 234,960 7.2.28 92,400 小計 1,279,080	エレベーターの保守 管理業務 エレベーター N:2台 遠隔点検12回 保守点検4回 定期点検1回	随契2号 (不適)	
4	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	医療法人社 団福在会磐 田住宅医療 クリニック	円 369,050	円 369,050	円 234,850	円 603,900	随契	6.5.28 ～ 7.3.31	6.7.31 100,100 6.8.30 67,100 6.9.30 33,000 6.10.31 134,200 6.11.29 100,100 小計 434,500	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	
5	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団訪 問看護ステーション三方原	円 180,400	円 180,400	円 0	円 180,400	随契	6.5.28 ～ 7.3.31	6.7.31 89,650 6.8.30 67,100 小計 156,750	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	
6	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	(福)聖隷福 祉事業団	円 474,650	円 474,650	円 0	円 474,650	随契	6.5.28 ～ 7.3.31	6.7.31 67,100 6.8.30 95,150 6.10.31 111,650 6.11.29 145,200 小計 419,100	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	
7	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	医療法人社 団静岡健生 会訪問看護 ステーションあすなろ	円 530,330	円 530,330	円 0	円 530,330	随契	6.5.29 ～ 7.3.31	6.7.31 61,370 6.8.30 83,805 6.10.31 55,870 6.11.29 99,870 6.12.26 83,370 7.1.31 61,370 7.2.28 50,370 小計 496,025	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	
8	ガス・ヒートポン プ・エアコン保守 点検業務	つばい工業 機	円 951,500	円 951,500	円 0	円 951,500	随契	6.6.11 ～ 7.3.31		円 ガス・ヒートポン プ・エアコンの保 守点検調整	随契1号 (少額)	
9	産業廃棄物 収集運搬及び処分業務	機大洋サビ ス	円 53,625	円 53,625	円 0	円 53,625	随契	6.6.28 ～ 6.10.31	6.9.3	円 53,625	産業廃棄物 収集運搬及び処分業務 (ガリストラップ)	随契1号 (少額)
10	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	合同会社 connect訪問看護ステーションはるはる	円 510,400	円 510,400	円 0	円 510,400	随契	6.8.29 ～ 7.3.31	6.10.31 84,150 6.11.29 84,150 6.12.26 84,150 7.1.31 56,100 7.2.28 84,150 小計 392,700	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	
11	医療的ケア 就学支援事業訪問看護 業務	合同会社 connect訪問看護ステーションはるはる	円 686,400	円 686,400	円 0	円 686,400	随契	6.9.25 ～ 7.3.31	6.11.29 223,300 6.12.26 223,300 7.1.31 189,750 小計 636,350	在校中の医 療的ケア就 学支援事業	随契1号 (少額)	

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
12	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱環吉	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.10.15 ～ 7.2.28	7.2.28	99,000	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	随契1号 (少額)
13	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務	㈱大洋サービス	53,625	53,625	0	53,625	随契	7.2.12 ～ 7.3.28			産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 (ｸﾞﾘｽﾄﾌﾟｯﾌﾟ)	随契1号 (少額)
	事務関係 計	13件								22,975,130		
	合 計	13件								22,975,130		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変 更 増減額	計						
参考 1	自家用電気 工作物保安 管理業務	遠鉄アシス ト㈱		円 4,755,960	円 294911	円 5,050,871		6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気 工作物 月次点検5回 年次点検1回	浜松城北工 業高校
参考 2	浄化槽保守 点検業務	管理事業㈱		3,524,400		3,524,400		6.4.1 ～ 7.3.31			し尿浄化槽 N:1基 基準点検 4回 基準外点検 8回 薬物投入 12回	新居高校
参考 3	可燃物収集 運搬処分業 務	環境保全㈱		運搬料1回 715円 処分料1kg 13.2円	0	運搬料1回 715円 処分料1kg 13.2円		6.4.8 ～ 7.3.31			可燃ごみの 処理業務 開校日は毎日 8月は週1回	浜松大平台 高校 単価契約
参考 4	プール浄化 装置保守点 検業務	清化工業㈱		998,800	0	998,800		6.4.8 ～ 6.12.27			プール浄化 装置保守点 検	浜松東高校
参考 5	建築物環境 衛生管理業 務	㈱シービー エム		7,773,260	0	7,773,260		6.4.1 ～ 7.3.31			建築物環境 衛生管理	浜松西高校
参考 6	消防用設 備保守点 検業務	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		18,810,000	-16,500	18,793,500		6.4.1 ～ 7.3.31			自動火災報 知設備、防 排煙設備、 屋内消火栓 設備、非常 用放送設 備、誘導灯 設備、消火 器、自家発 電設備 機器点検1回 総合点検1回	浜松湖北高 校
参考 7	建築基準法 第12条に基 づく定期点 検業務	㈱山口一級 建築士事務 所		2,200,000	0	2,200,000		6.11.22 ～ 7.3.24			建築基準法 第12条に基 づく点検	浜北西高校
参考 8	学校警備 業務	セコム㈱		10,164,000	0	10,164,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R1長期
参考 9	学校警備 業務	セコム㈱		14,256,000	0	14,256,000		6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業 務	浜松工業高 校 R6長期
	計	9件										

負担金支出調

(令和5年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	円 8,000	令和5年6月8日
2	第66回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会宮城大会参加費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長代行	第66回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会宮城大会開催要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	3,500	令和5年6月23日
3	細江地区安全運転管理協会会費	細江地区安全運転管理協会会長	細江地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	25,000	令和5年7月12日
4	全国訪問教育研究会第36回全国大会参加費	全国訪問教育研究会会長	全国訪問教育研究会第36回全国大会開催要項	訪問教育の充実と発展に寄与する研究協議	6,000	令和5年7月24日
5	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長代行	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会規約	肢体不自由教育の向上に寄与する調査研究	4,500	令和5年7月31日
6	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和5年8月18日
7	安全運転管理者講習受講料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	4,500	令和5年8月22日
8	第69回全国肢体不自由教育研究協議会島根大会参加費	第69回全国肢体不自由教育研究協議会島根大会実行委員会委員長	第69回全国肢体不自由教育研究協議会島根大会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	5,000	令和5年10月4日
合 計		8 件			71,500	

負担金支出調

(令和 6 年度)
(令和 7 年 2 月 28 日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜松中央地区安全運転管理協会会費	浜松中央地区安全運転管理協会	浜松中央地区安全運転管理協会会則	安全運転管理者の充実強化、交通安全の実現に寄与	円 25,000	令和 6 年 6 月 10 日
2	第41回障害児摂食指導講習会参加費	特定非営利活動法人日本肢体不自由教育研究会理事長	第41回障害児摂食指導講習会開催案内	障害児の摂食指導に関する技術向上	31,000	令和 6 年 6 月 18 日
3	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会規約	肢体不自由教育の振興、管理運営に関する調査研究	8,000	令和 6 年 6 月 20 日
4	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会規約	肢体不自由教育の向上に寄与する調査研究	4,500	令和 6 年 6 月 27 日
5	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会群馬大会参加費	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会事務局	第67回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭研究協議会大会要項	肢体不自由教育の諸問題への対応のための研究協議	3,000	令和 6 年 7 月 26 日
6	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会費	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会則	肢体不自由教育の振興を図るための調査研究	15,000	令和 6 年 8 月 7 日
7	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会参加費	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会実行委員会	第70回全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会開催要項	肢体不自由教育の充実と発展のための研究協議	9,000	令和 6 年 9 月 6 日
8	安全運転管理者講習受講料	静岡県安全運転管理協会	道路交通法	安全運転管理者に対する安全運転管理の講習	4,500	令和 6 年 10 月 28 日
合 計		8 件			100,000	

公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令和5年3月31日 現 在		増		減		令和6年3月31日 現 在		摘 要
	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,418,491		千円				千円 2,323,881	
土 地	m ² 18,298.99	237,487			m ²		m ² 18,298.99	237,487	
立木竹	本 79	1,312	本		本		本 79	1,312	
建 物	m ² 6,759.94	1,914,227				71,854	m ² 6,759.94	1,842,373	
	9,947.09						9,947.09		
工作物	個 108	265,465	個		個	22,756	個 108	242,709	
公有財産に 準ずるもの		268						268	
電話 加入権	件 5	268	件				件 5	268	

公 有 財 産 調

(令和 6 年度)

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

区 分	令和 6 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令和 7 年 2 月 28 日 現 在		摘 要
	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	数量又は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,323,881		千円		千円		千円 2,324,314	
土 地	18,298.99 ^{m²}	237,487					18,298.99 ^{m²}	237,487	
立木竹	79 ^本	1,312		433 ^本			79 ^本	1,745	
建 物	6,759.94 ^{m²}	1,842,373					6,759.94 ^{m²}	1,842,373	
	9,947.09						9,947.09		
工作物	108 ^個	242,709					108 ^個	242,709	
公有財産に 準ずるもの		268						268	
電話 加入権	5 ^件	268					5 ^件	268	

借地借家等調

(令和 7 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.09m ²	円	無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
2	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	河川敷	歩道	0.13m 0.05m ²		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
3	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.87m 0.67m ²		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
4	土地	学校 敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	道路敷	歩道	1.76m 1.23m ²		無償	2.4.1 ～ 7.3.31	浜松市長	排水管(調 整池放水管 接続)
	計					3.89m 2.04m ²					

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)
(令和7年2月28日現在)

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契 約 額 の 年 度 別 内 訳)						
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長期 継続 契約	学校給食業 務委託契約	完全給食による主 食・副食の調理及び 主食・副食配膳業務 (契約日) 令和2年8月3日	33,184,800	7,374,400	11,061,600	11,061,600	3,687,200			
長期 継続 契約	学校給食業 務委託契約	完全給食による主 食・副食の調理及び 主食・副食配膳業務 (契約日) 令和5年8月1日	35,164,800				7,814,400	11,721,600	11,721,600	3,907,200
長期 継続 契約	スクールバス 運行管理業 務委託契約	スクールバス2台の運行 管理業務 (契約日) 令和2年4月1日	31,530,151	10,410,151	10,560,000	10,560,000				
長期 継続 契約	スクールバス 運行管理業 務委託契約	スクールバス2台の運行 管理業務 (契約日) 令和5年4月1日	33,264,000				11,088,000	11,088,000	11,088,000	

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年度)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市北区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 4本 支線 3本	1,500	円 10,500	2.4.1 ～ 7.3.31	中部電力(株) 電力ネットワークカンパニー浜松営業所 細江サービスステーション所長	電力供給
2	土地	学校敷地	浜松市北区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 5本 支線 2本	1,500	10,500	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
3	土地	学校敷地	浜松市北区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	43.75㎡		18,200	5.4.1 ～ 6.3.31	遠州鉄道(株) 代表取締役	バス停留所
4	土地	学校敷地	浜松市北区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	0.25㎡		100	5.4.1 ～ 6.3.31	湖東商工会会長	外灯
5	土地	学校敷地	浜松市北区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	支線 2本	1,500	3,000	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
合計								42,300			

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年度)

(令和7年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 4本 支線 3本	1,500	円 10,500	2.4.1 ～ 7.3.31	中部電力パワーグリッド(株) 浜北営業所 配電建設グループ長	電力供給
2	土地	学校敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	電柱 5本 支線 2本	1,500	10,500	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
3	土地	学校敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	43.75㎡		18,200	6.4.1 ～ 7.3.31	遠州鉄道(株) 代表取締役	バス停留所
4	土地	学校敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	0.25㎡		100	6.4.1 ～ 7.3.31	湖東商工会会長	外灯
5	土地	学校敷地	浜松市中央区 根洗町597-1	学校用地	学校敷地	支線 2本	1,500	3,000	2.4.1 ～ 7.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電気通信線 路設備維持
合計								42,300			

主 要 備 品 調

(令和7年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	01-13	調理器具	真空冷却機 ホテルパンラック仕様	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	2,374,380 ^円
2	01-13	加熱器具	コンビオープン ホテルパン1/1	毎日(年間240日) 調理に使用	平成29年 3月	1,940,328
3	01-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 両面ガラス扉	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,828,980
4	10-99	その他の教育用器具	わいわい工場 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成20年 2月	1,669,500
5	02-01	パーソナルコンピュータ一式	県立学校ICT環境整備機器一式	週3回(年間40週) 授業に使用	令和2年 1月	1,624,425
6	01-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ自動食器洗浄機	毎日(年間240日) 食器洗浄に使用	平成29年 3月	1,557,684
7	01-04	その他の収納保管庫	収納保管庫 W5,440×D450×H2,500	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成29年 3月	1,542,240
8	10-99	その他の教育用器具	4人用シーソー 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成18年 3月	1,470,000
9	10-99	その他の教育用器具	2連ブランコ 本体、安全マット	毎日(年間200日) 自立活動授業に使用	平成19年 2月	1,176,000
10	01-13	食品食器洗浄機	電気式食器消毒保管機 5段式	毎日(年間365日) 食器洗浄、保管に使用	平成29年 3月	1,165,320
11	01-13	冷蔵(凍)庫	冷凍冷蔵庫 2室冷蔵、2室冷凍	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	1,067,688
12	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ G5E	随時(年間40日) 学校行事に使用	昭和53年 12月	790,000
13	01-13	冷蔵(凍)庫	冷蔵庫 603L	毎日(年間365日) 食材保管に使用	平成29年 3月	748,656
14	01-04	移動書庫	5列書庫 2030×1000×490cm	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成9年 8月	747,600
15	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
16	01-04	下駄箱	来客用下足入れ W2,890×D720×H1,600mm	毎日(年間365日) 来客、職員下足収納に使用	平成29年 3月	742,500
17	01-04	移動書庫	移動棚 N954AMZ210	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成14年 1月	732,900
18	01-04	書類収納庫	書類収納庫 ビジネスウォールNS	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成13年 3月	728,175
19	06-06	炉	電気式横扉陶芸窯 LK-6型	年間6回程度 授業に使用	平成29年 3月	718,200
20	01-13	ユニットキッチン	下処理用3層シンク W1800×D750×H850	毎日(年間240日) 食器の洗浄に使用	平成29年 3月	670,788

事務事業及び予算の執行実績（別冊）

静岡県立西部特別支援学校

職 員 調

(令和7年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	本杉 和美		□□□	□年 □月	□□□□□□
2	副校長	堀川 朋子		□□□	□年 □月	□□□□□□
3	教頭	白柳 沙代		□□□	□年 □月	□□□□□□
4	事務長	松浦 亜希子		□□□	□年 □月	□□□□□□
5	教諭	青木 満美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
6	教諭	本田 祐子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
7	教諭	杉浦 規仁	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
8	教諭	鈴木 道子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
9	教諭	花井 隆行	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
10	教諭	林 美佐	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
11	教諭	鈴木 正樹	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
12	教諭	久野 日出夫	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
13	教諭	本田 恵子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
14	教諭	刑部 智子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
15	教諭	門松 三郎	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
16	教諭	鈴木 理世	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
17	教諭	佐藤 昇司	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
18	教諭	田中 由加里	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
19	教諭	安田 律子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
20	教諭	宮本 晴子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
21	教諭	山本 諭	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
22	教諭	犬塚 佳恵	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
23	教諭	長谷川 恵子	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
24	教諭	前田 悦子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
25	教諭	伊藤 久美子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
26	教諭	奥五沢 恭子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
27	教諭	竹内 明日香	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
28	教諭	矢部 規予	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
29	教諭	山崎 真理子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
30	教諭	蛭海 健太郎	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
31	教諭	望月 輝	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
32	教諭	米山 さおり	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
33	教諭	竹内 早重美	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
34	教諭	宮本 貴	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
35	教諭	久保 成子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
36	教諭	星野 麻衣	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
37	教諭	田原 有佳里	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
38	教諭	黒田 麻里奈	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
39	教諭	山内 悠里	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
40	教諭	増田 里絵	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
41	教諭	修田 忠	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
42	教諭	内山 恵理子	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
43	教諭	木村 悟	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
44	教諭	飯尾 友佳子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
45	教諭	平木 愛	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
46	教諭	舟澤 弓美子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
47	教諭	石川 大人	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
48	教諭	金原 正和	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
49	教諭	野末 郁真	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
50	教諭	平田 友里恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
51	教諭	牧野 琴美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
52	教諭	沼田 祐一郎	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事 務 分 担	住 所	勤務年数	摘 要
53	教諭	平野 光	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
54	教諭	五十嵐 遼輔	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
55	教諭	高橋 真紀	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
56	教諭	植杉 太一	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
57	教諭	新村 美佐都	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
58	教諭	小木 香奈美	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
59	教諭	内山 茜	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
60	教諭	山口 ゆう子	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
61	教諭	延本 佑味	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
62	教諭	宮地 大輔	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
63	教諭	萩田 由衣	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
64	教諭	山田 陽太	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
65	教諭	鈴木 彩菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
66	教諭	井上 敦子	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
67	教諭	内山 敬太	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
68	教諭	白柳 慶太	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
69	教諭	河合 かえで	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
70	教諭	竹山 侑季	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
71	教諭	田口 智也	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
72	教諭	山田 太郎	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
73	教諭	浅井 彩加	訪問教育	□□□	□年 □月	□□□□□□
74	教諭	笹瀬 由樹	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
75	教諭	和久井 巧	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
76	教諭	山本 寛人	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
77	教諭	袴田 詩織	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
78	教諭	松本 知久	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
79	教諭	大場 翼	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
80	教諭	那須野 翔太	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
81	教諭	後藤 ゆり	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
82	教諭	鈴木 雄大	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
83	教諭	佃 誠也	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
84	教諭	片山 莉奈	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
85	教諭	鮎合 真聖	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
86	教諭	井手 扶実子	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
87	教諭	窪田 潤	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
88	教諭	西澤 美波	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
89	教諭	野坂 和貴	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
90	教諭	前原 聖那	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
91	教諭	田中 龍成	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
92	教諭	小林 空誠	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
93	教諭	杉浦 佑奈	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
94	教諭	牧野 友菜	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
95	教諭	佐藤 直哉	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
96	教諭	川口 楓乃	高等部	□□□	□年 □月	□□□□□□
97	教諭	小田 由紀美	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
98	教諭	砂子 静	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
99	教諭	山田 彩乃	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
100	養護教諭	鈴木 麻衣	中学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
101	養護教諭	小田 遥	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
102	栄養教諭	水野 清佳	小学部	□□□	□年 □月	□□□□□□
103	主査	竹内 耕作	会計・管財	□□□	□年 □月	□□□□□□
104	主査	鈴木 由華	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□
105	主査	榊原 美佳	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□
平均年数					□年 □月	

職員の年齢調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	19	
30歳以上40歳未満	36	
40歳以上50歳未満	19	
50歳以上56歳未満	16	
56歳以上61歳未満	9	
61歳以上	6	再任用職員6人
計	105	平均年齢 39.7歳

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 109人 職員数 109人
受 診 率	100. 0 %
県平均受診率	100. 0 %

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行っていが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	22 (22) 人
D 2		要経過観察	10 (10) 人
D 3		医 療 不 要	68 (68) 人
区 分 者 計			100 (100) 人
未区分者数			5人
合 計			105人

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐